

P3-230 線維筋痛症とシェーグレン症候群の合併例の検討

○岡 寛¹, 中村 満行¹, 西岡 久寿樹²

¹東京医科大学 八王子医療センター,

²東京医科大学 医学総合研究所

【目的】線維筋痛症(FM)とシェーグレン症候群(SS)は、臨床的に乾燥症状、筋痛、全身倦怠感などの類似性が多いため、両者の合併率を調査して、両疾患の異同を検討する。

【方法】当科が新設された2011年4月から2012年10月までの外来患者におけるFM(ACR1990基準)患者数とSS患者数(厚労省研究班1999基準)をretrospectiveに診療録から調査した。さらにFM患者の中で乾燥症状を有する数とSS患者の中で全身性の筋痛を有する数を調査し、最終的にFMとSSの合併率を検討した。

【結果】FMの患者数は、70人(男性11人、女性59人、平均年齢44歳)であった。SSの患者数は、44人(男性2人、女性42人、平均年齢60歳)であった。FM患者の中で、ドライアイ、ドライマウスのいずれかの乾燥症状を有する数は、55人(78.6%)に認められた。SS患者の中で、全身性の筋痛を有する患者数は、10人(22.7%)に認められたが、FMとSSの両診断基準を満たす例は、4人(FMの5.7%)のみであった。

【結論】FM患者における乾燥症状は、交感神経優位になっている例や抗うつ薬などの治療薬によって生じている例もあり、実際のSS合併例は多くないことが示唆された。

利益相反：有